平成 23 年 10 月 3 日　月曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC

今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題　～RS ウイルス感染症について～

（調査週）　平成 23 年　　第 38 週　　9 月 19 日（月）～　9 月 25 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　（奈良県上位 5 疾患）　（5 週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北　部	中　部	南　部
1	手足口病	1.51	→～↓	→～↓	↑	→～↓
2	感染性胃腸炎	1.43	→	→	→	→～↓
3	RS ウイルス感染症	0.77	↑↑	↑↑	↑↑	↓
4	水痘	0.49	→	→～↓	↑	→～↑
5	突発性発疹	0.43	→	→～↑	↓	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

奈良市保健所管内で手足口病が警報レベル（定点当たり2.00）です。

県北部地区概況　報告数は 76 例で、前週報告の 75 例から横ばい。上位 5 疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③RS ウイルス感染症、④突発性発疹、⑤水痘の順。RS ウイルス感染症の報告数（3→12 例）は、増加。手足口病の報告数（23 例）は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（16 例）も、ほぼ横ばい。突発性発疹の報告数（11 例）も、ほぼ横ばい。水痘の報告数（6 例）も、ほぼ横ばい。郡山 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎；1 例と無菌性髄膜炎；1 例（10～14 歳児）が、それぞれ報告された。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。　（村井　記）

県北部外来状況：外来患者数は、朝晩の気温の低下で鼻水や咳の風邪が増えてきているが、予防接種希望者が目立つ程度である。手足口病は減少しているが幼児から成人までみられる。RS ウイルス気管支炎が保育園児で時にみられる。気温の低下のためか腹痛と嘔吐の風邪が出てきている。　（矢追　記）

県中部地区概況　報告数は 37 週の 93 例から、38 週は 94 例と横ばいであった。上位の 5 疾患（37 週→38 週）は、①感染性胃腸炎（21 例→31 例）、②手足口病（21 例→26 例）、③RS ウイルス感染症（10 例→15 例）、④水痘（8 例→10 例）、⑤咽頭結膜熱（8 例→5 例）の順であった。感染性胃腸炎が 1 位、手足口病が 2 位、RS ウイルス感染症は更に増加し 3 位となった。RS ウイルス感染症は、乳幼児では呼吸器症状が重篤化しやすく要注意である。インフルエンザの報告はなかった。基幹定点からは葛城 HC よりマイコプラズマ肺炎 1 例の報告があった。眼科定点からの報告はなかった。

（徳田　記）

県中部外来状況：外来数は気候の変化・運動会などの影響か増加。短期の発熱・咽頭発赤は強くない例が主。ゼロゼロの咳の例は少ない。手足口病が再び増加。症状は軽いが口内炎の多い例がある。伝染性紅斑、A 群溶連菌感染症が少し。感染性胃腸炎は減少。その他登録疾患は少ない状況。　（岡本　記）

県南部地区概況　報告数（第 37 週→第 38 週）は 22 例→13 例と減少。報告のあった疾患は、①手足口病（5 例→4 例）、②A 群溶連菌咽頭炎（2 例→3 例）、②感染性胃腸炎（5 例→3 例）、④突発性発疹（2 例→2 例）、⑤水痘（0 例→1 例）であった。

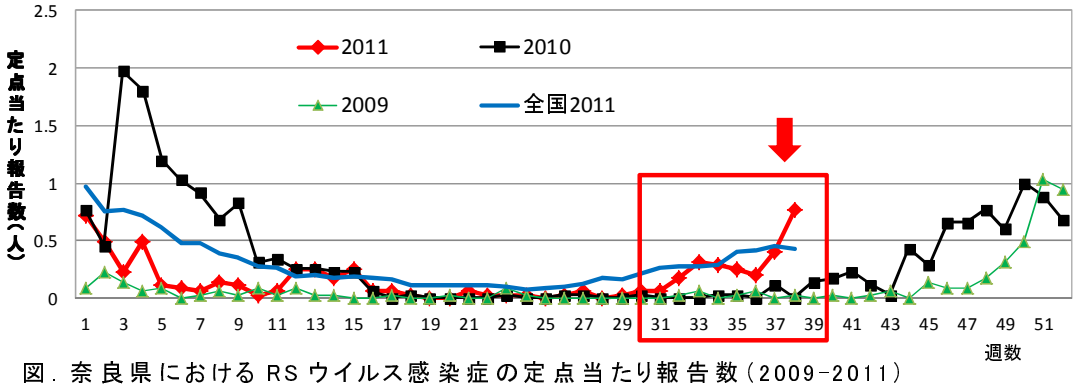
（柳生　記）

県南部外来状況：外来数は連休もあったが少ない状況が続いている。感染性胃腸炎は殆ど見られず。ヘルパンギーナや手足口病が一部の保育所でまだ流行があり、まだ少しあったがヘルパンギーナは第 38 週では見られなくなった。他は流行性耳下腺炎が僅かのみ。　（山本　記）

【気になる話題　～RS ウイルス感染症について～】

RS ウイルスは、Respiratory syncytial virus の略称で、軽い風邪から重度の肺炎まで様々な症状を引き起こします。国立感染症研究所は、RS ウイルス感染症について大きな流行の恐れがあるとして注意を促しています。

この疾患はふつう冬季に流行しますが、今年は夏季に患者の増加がみられます。奈良県でも第 32 週（8 月 8 日-15 日）から報告数が増加傾向で、週報の外来状況コメントにも言及されています（第 32、34、36 週週報参照）。



図．奈良県における RS ウイルス感染症の定点当たり報告数（2009-2011）

（感染症情報センター　記）